

各種ワークショップの開催報告

1. 中学生ワークショップ

- 球美中学校（令和6年10月9日）
- 久米島西中学校（令和7年2月26日）

2. 住民ワークショップ

- ママさんワークショップ（令和6年12月15日）
- 産業団体ワークショップ（令和6年12月16日）
- 地域住民ワークショップ（令和7年2月26日）＊移住者を中心に呼びかけ（今後の予定）
 - 全体ワークショップ
 - 住民説明会

3. 職員ワーキング（-久米島ビジョンラボ-島ぬ3時茶あ会議-）

- 準備回（令和6年7月17日）
- 第1回（令和6年10月9日）
- 第2回（令和6年12月26日）（今後の予定）
 - 第3～6回

1. 中学生ワークショップ

【ワークショップの狙い】

- ・ 総合計画への理解と関心を促し、各種データより久米島町の姿を捉える。（学びを促す。）
- ・ 人口減少に進む社会における課題や方向性を考える。
- ・ 将来の久米島の理想の姿を共有し、島づくり・まちづくりの在り方を考える。

【球美中学校の主な意見とまとめ】

- ・ 将来像の検討では、「A_笑顔いっぱい島」、「B_自然あふれる楽しく暮らしやすい島」、「C_安全でのんびりできる働きがいのある楽しい島」、「D_愛を持って助け合い 笑顔溢れる過ごしやすい島」の4つのグループとテーマで意見交換を行った。
- ・ Aグループでは、娯楽関係の施設の充実、助け合い・コミュニケーションなどの意見が多く挙がり、島で楽しむための取り組みが必要とされた。
- ・ Bグループでは、自然に関する意見が多く、イベント・ボランティア（ゴミ拾い重さ対決）、自然を活かしたイベント・観光など、島の自然を活かした島づくりが必要とされた。
- ・ Cグループでは、暮らしに関する意見が多く、娯楽、医療、学びに必要な施設が望まれた。また、自然保全、働く場所の充実に関連する意見も上がっている。
- ・ Dグループでは、自然・文化の保全、地域活動・コミュニティ、暮らしに関する意見が多く、共助の島づくりが必要とされた。
- ・ 全体を通して、久米島の自然保全や暮らしの充実に関する意見が多く見られ、子ども達もこれらが久米島の課題として認識している。



【久米島西中学校の主な意見とまとめ】

- ・ 将来像の検討では、「①_充実した島」、「②_自然と幸せあふれる島 ～全世界の観光の行き先～」、「③_自然豊かな島」の3つのグループとテーマで意見交換を行った。
- ・ チーム①では、自然環境の保全、交通や福祉・教育制度の充実、産業振興、地域交流に関する多様な意見が挙がり、自然・生活・産業の調和が取れた島づくりが必要とされた。
- ・ チーム②では、観光PR活動や観光資源の活用、娯楽施設の整備、に関する意見が多く、観光を軸に地域活性化を進めることが必要とされた。
- ・ チーム③では、自然環境の保全（海・山・ゴミ問題）、地域清掃やボランティア活動推進といった意見が多く、自然と寄り添う暮らしと、地域の主体的な取り組みが必要とされた。
- ・ 全体を通して、自然環境の保全、遊び場や娯楽施設の設置、観光・産業の振興に関する意見が多く見られ、子ども達は久米島の将来の発展に対する多様な視点を持っていることがうかがえた。



2-1.ママさんワークショップ

【ワークショップの狙い】

- ・ 立場が共通する住民同士で、それぞれが感じている町の課題や島づくりの展望等について意見交換行う。
- ・ 意見を出しやすく、近い視点からの濃い議論が行えることから、現状・課題・今後の方針やK P Iの評価に関する意見収集を図る。
- ・ 若い女性（ママさん達）が、今後も安心して島に住み続けてもらうにはどんなことが必要なのかを情報収集し、施策検討の参考にする。



【主な意見（抜粋）】

- ・ （保育について） 保育園に入れない。途中入園が難しい。保育園が決まらなくて仕事に復帰できない。
- ・ （学校教育について） 学校間で学習環境、教育的に差がある。各学校の特色はあってもよいが、同じ質の教育が受けられるようにして欲しい。
- ・ （子育て環境について） 雨の日の過ごし方に困っている。室内遊びで体を動かして体幹を使って遊べる場所があれば。児童館が欲しい。
- ・ （出産・医療について） 島で出産が出来ない不便さ、不安はある。産院が無くても安心できるように産前産後のサポートを手厚く、情報も得やすくして欲しい。
- ・ （仕事について） 仕事の業種が限られている。1人1人のスキルを活かしているのか。子育てと仕事の両立が難しい。給料が低くて、生活が続けられるか不安。不安無く生き生きと働けるようになって欲しい。
- ・ （買い物について） 物価が高い。ガソリン、必需品がとにかくお金がかかる。飲食店の数は維持して欲しい。子育ての息抜きの場所でもある。
- ・ （交通・住まいについて） 交通が不便。航空運賃の負担が大きい。移住者の声として、住まいが見つからない。物件が古すぎたり、浴槽が無いなど条件が合わなくて移住できない。
- ・ （コミュニティ・文化） 閉鎖的な環境なので、将来子どもが島から出た時に様々な人とコミュニケーションに困らないか不安。世代間交流でどう支え合うか。つながりを持って頼れる関係性、場所をつくりたい。

【考察】

- ・ 保育園のスタンスや小中学校の学習環境等に差を感じる、小さな島だが一体感が無いとの課題がある。各園や学校の特色は保持しつつも、島一体の方針を持った保育・教育の実現のため、保幼小中高の連携強化が期待されている。
- ・ 土曜保育、病児保育、こども園の設立を要望する意見が多い。働くお母さん達が自分時間も確保し心のゆとりが持てるように、また、先生の収入にもなるウィンウィンな関係の保育サービス、職場の週休2日制が確立できるとよい。子どもを預けないと何もできないという声も多く、父親が共に子育てに取組める環境づくりや、地域間・世代間のつながり強化の必要性も想像される。
- ・ 医療については、島内に専門医、産院が無いことへの不安や不便さが大きい。通院にかかる渡航費の補助や、産前産後の情報習得の機会、安心につながるサポートへの要望が多い。
- ・ 豊かな自然に触れ合える環境への満足は高いが、様々な体験、感性に触れる機会を与えることや、天候に左右されない居場所づくりを要望する意見が多い。
- ・ ワークショップの開催方法として、子育て中の親が参加しやすいように、今回のように預かりスタッフがいて参加しやすいので継続して欲しいとの意見もあった。

2-2.産業団体ワークショップ

【ワークショップの狙い】

- これからの“しごと”や“働き方”について意見交換を行い、久米島の将来を担う若手層の声を把握する。
- 異種交流型の意見交換により、産業間連携の可能性や多様な働き方を考える。

【主な意見（抜粋）】

商工業・紬グループ

<商工業・織物業の望ましい姿>

- スタッフが勤めている会社の目標を共通認識で把握している
- 人材が流出しない、仕事を続けたいとなる職場環境の整備
- 話しやすい仲間がいる明るいコミュニティ

<商工業・織物業の現状・課題>

- 振興通りのくたびれ感、久米島紬の反物・かりゆしウェアの販路確保、一番大事な地域コミュニティの希薄化

<商工業・織物業の課題解決の視点>

- 観光インフラ整備、ネット販売・広告強化、子ども・孫が活躍したいと思える島の活性化、進むべきベクトルを合わせる

農業グループ

<農業の現状・課題>

- 人材不足・後継者不足、資材高騰による収益減少、資材高騰による生産意欲の低下、気候変動等自然条件の変化

<農業の課題解決の視点>

- 産業間での出向・副業の促進、畜産農家の堆肥活用等、農家間の連携促進、農家以外の住民向けの共同農地を運営、ハウス栽培や養殖等、安定生産に繋がる海洋深層水事業に期待

観光グループ

<観光関連業の望ましい姿>

- 観光事業者の自主性を高めたい、主な仕事の中で課題解決できる仕組みづくり、地消地産、観光から移住までの連携

<観光関連業の現状・課題>

- 人手不足、低賃金、島の認知度が低い、5団体の連携が薄い、入域者数の減少が想定される

<観光関連業の課題解決の視点>

- 各産業の求人や就業者を見える化し、マッチングに繋げる
- スポーツ交流等、島外との交流を増やし、認知度を向上させる
- 5団体連携が生まれる環境づくり



【考察】

- ワークは、「商工業・紬」、「農業」、「観光業」の3グループで実施した。
- 各産業の「望ましい姿」及び「現状・課題」の抽出までは、各産業に所属する参加者により行い、「課題解決の視点」及び「産業全体のあるべき姿」は、参加者をシャッフルして、多角的な視点により意見交換を実施した。
- いずれのグループにおいても、人材不足・後継者不足（またそれに関連する住宅不足）が大きな課題として位置付けられた。
- 人材不足解決のアイデアとして、産業間連携による人材交流（出向・副業等）や、それを促進するマッチングの機会・場の設定等が挙げられ、町内での各団体の連携強化が必要とされた。
- また、その他課題の解決においても、産業間連携の場を設けることが有用とされ、具体的には商工会の定例会（月1回）への他産業からの参加や、各産業の青年部会同士のつながりづくり等が案出された。経営層・管理層の連携だけではなく、若手層の草の根的ボトムアップ型の連携も望まれている。

地域住民ワークショップ

【ワークショップの狙い】

- 住民（地元出身者、移住者、若者）の視点で感じる久米島らしさを共有する。
- 久米島らしさを持続するために大事なものを抽出する

【主な意見(抜粋)】

移住者グループ

<自然環境>

- 星空や川、海などの自然は、生活や産業と密接に関わっており、自然保護の重要性が高い。特に、海や川の汚染対策が課題。

<生活>

- 安心してゆったり暮らせる環境であり、交通や買い物、那覇へのアクセスも意外と便利。しかし、情報発信が地元目線に偏り、外部からは分かりにくい点がある。

<産業>

- 久米島紬に象徴される伝統文化は貴重。一方で、職種や就職先の選択肢が限られ、商業面の発展が求められる。

<その他>

- 地域交流や飲み会を通じて強い結びつきが築かれ、外部の人にも温かく開かれたコミュニティが形成されている。

島内出身者グループ

<自然環境>

- 海・山・川といった生活と深く結びつく自然環境は、その美しさを次世代に引き継ぐための保全活動が重要である。

<生活>

- 人と人とのつながりが強く、安心・安全で快適に暮らせる生活環境が整っている。

<産業>

- サトウキビ栽培や久米島紬などの伝統産業は地域にとって欠かせない存在である。一方で、後継者不足や職種の幅の狭さといった課題を抱えている。

<その他>

- 地域活動やコミュニティの存在は地域社会の維持に不可欠であるが、人口減少や若者の流出により、その活動基盤の維持が難しくなっている。



【考察】

- 自然環境の視点では、移住者グループからは、星空や川、海などの自然を暮らしや産業と結び付け、大切にしているとの意見が挙がった。島内出身者グループからは、自然が生活に欠かせない存在であり、その保護の重要性を指摘する声が多く聞かれた。両グループとも、自然を生活の一部として重視している様子がうかがえた。
- 生活の視点では、ゆったりとした時間の流れや安心して暮らせる環境がうかがえた。特に、交通・教育環境の良さや、地域行事・交流の機会が世代を超えて開かれている点から、のびのびと暮らせているとの意見が多かった。
- 産業の視点では、移住者グループからは、久米島紬などの伝統文化を重要な産業資源と捉えつつ、職種や就職先の少なさを課題とする声があった。島内出身者グループからは、サトウキビや畑仕事、久米島紬といった地場産業の持続・発展を課題とする意見が聞かれた。いずれのグループも、伝統産業を重視しつつ、就職先の選択肢の少なさや将来への不安を共通の課題として捉えていることがうかがえた。
- その他の視点では、移住者・島内出身者ともに、飲み会や地域行事を通じた世代を超えたつながりを魅力とする意見が多かった。移住者グループからは、島外の人々を温かく受け入れてもらっていることへの安心感が挙がり、島内出身者グループでは、それを「当たり前」とする認識が特徴的であった。

3-1.職員ワーキング準備回

久米島ビジョンラボ 結

～島ぬる時茶あ会議～

【ワークショップの狙い】

- ・ 計画づくりの方向性共有と意識醸成
- ・ 自由な発想で、総合計画の作り方、アウトプット、使い方を考えてみる。



【主な意見とまとめ】

| | |
|------------|--|
| プロセス | <ul style="list-style-type: none">・ 地域住民を巻き込みながら、自身に関わり立案する策定プロセス。・ 定期的なミーティングや勉強会を開催する。・ 子育て世代や高齢者世代の意見も井戸端会議などで聴き取る。 |
| 次の施策の目玉 | <ul style="list-style-type: none">・ 総合計画の施策推進に関し“自分ごと”として意識すること・ 海洋深層水事業の活性化・ 久米島紬のさらなる高付加価値・ブランド化・ DXの推進・ 島への愛着・プライドづくり・ グッジョブキャリア教育（久米島型就業意識向上支援事業）推進・ 稼ぐ・儲かるための就業環境改善と企業支援（働く魅力づくり）・ 若い世代のU Iターン・定住移住の促進 |
| 計画の表現やデザイン | <ul style="list-style-type: none">・ 現行総合計画のサイズ（B5）・デザインを踏襲・ 表・グラフ、図版等はインフォグラフィックを活用し、視覚的にも分かりやすく・ 子ども（高学年から）でも分かりやすい内容で整理（ルビ振りなど）・ 変化に対応できるアジャイル型の総合計画・ 各課のステークホルダーの役割分担・整理・ 施策 T シャツや漫画など、伝える表現や工夫が大事 |
| 使い方 | <ul style="list-style-type: none">・ 各課の施策や指標を見える化して常に意識する。 |

3-2.第1回職員ワーキング

【ワークショップの狙い】

- これまで（10年間）の島づくりを振り返り、成果と課題を確認する。
- これから（10年間）の久米島の暮らしを創造し、持続可能な島づくりを検討する。



【主な意見とまとめ】

<これまでの10年>

（生活の視点）

- 人口減少の現状や対策を講じる必要性を課題として認識している。これまでの10年間は、医療福祉に関する取り組みについて効果を得られている一方、安定した医療体制や医療費の高騰など生活サービスに課題がある。

（生業・産業の視点）

- 水産業では、水産加工場の整備により品質の確保及び量産体制が確立できた一方で、原料不足や人材不足、技術力が不十分であることが指摘された。
- 観光業では、事業者間連携やDMOの組成により関係団体の意識向上。次の展開として、観光人材の確保、2次交通環境の整備、客層の拡大が必要とされた。

（自然・環境の視点）

- 久米島の海岸及び海域では、赤土流出対策、漂流ゴミ対策など海の環境保全に成果がみられた一方で、継続的又は強化して実施する必要があるとされた。
- 住居環境では、景観保全、空き家に関心が高く、今後も大事な取り組みとして認識している。

（統合・調和の視点）

- 上記3つの視点を関連付け統合・調和させていくためには、生活に必要なインフラや公共施設の適正管理や公共サービスの効率化が重要としている。
- 持続的に暮らすためにも、医療・福祉・教育の充実を図り、住宅や雇用など、人口を支える生活サービスの向上、移住定住の支援が必要。

<これからの10年>

- 生活の視点では「住み続けたいしまづくり」を目指し、医療・福祉・教育の連携によるきめ細やかな住民サービスの展開、生活の質を向上させる住環境整備、地域コミュニティや娯楽の機会を提供する公民館的機能の充実・拡充が望まれる。
- 生業・産業の視点では「次世代へ継げる島づくり」を目指し、水産業や農業の生産基盤の強化、観光業と連携する新たな観光メニューの展開、深層水の活用含めた産業全体の稼ぐ力の向上が望まれる。
- 自然・環境の視点では、久米島の特徴ある自然環境の保全、景観の維持・継承が望まれる。特に農地保全、赤土流出対策、海洋ごみ対策は、今後も継続が重要である。
- 3つの要素を繋ぐ統合・調和の視点では、「ゆたかであるおう島・・・夢も心も懐も・・・」に向けて、起業支援を行う「挑戦を応援する島」、地域住民同士や住民と観光客の交流を促進する「つむぐプロジェクト」として、次期計画をけん引するリーディングプロジェクトとして位置付けることを提案した。

3-3.第2回職員ワーキング

【ワークショップの狙い】

- 地域のらしさの捉え方・活かし方を学ぶ。
- 久米島らしさを共有し、久米島のあるべき姿を考える。
- 久米島らしさを活かす・伸ばすための方策を考える。

【主な意見とまとめ】

- コミュニティ・人の視点では、コミュニティの近さや共助の関係性が強いことが、良くも悪くも島人の性格・特徴として捉えられた。おじーおばーが元気で、働き者の女性が多いという意見も特徴的であった。
- 歴史・文化の視点では、多様な地域行事・伝統行事、様々な地域資源（文化財含む）が多くあることが島の誇りであることが伺えた。特に久米島紬は島を代表する伝統工芸品であるとともに、自然・水に関連する文様（図柄）が久米島らしさを特徴づけている。
- 自然環境の視点では、豊かな自然は久米島らしさであり、クメジマボタルやキクザトサワヘビなどの固有種が久米島ならではの意見があった。島の生活や生業（紬）は、豊かな自然や水を楽しむ成り立ち、現在の暮らし・産業も恩恵を受けている。
- 産業の視点では、赤どり、車えび、泡盛など飲食に関連するものが多く上げられた。また、未開発の食材や地域の家庭料理もあり、地域の風土から生まれた食材や料理が多様にあることを参加者で共有した。
- その他、景観や交通、島づくりに関する多様な意見がある中、現在の暮らしや環境が、「落ち着いた島」、「丁度よい島」として、久米島らしさを捉えている。

特別講話 「らしさ」を活かす地域づくり

～地域らしさ × 総合計画～

講師 京都府立大学准教授 上杉和央

- 「地域らしさ」の方法や捉え方や見方について、参考事例を交えて講話頂いた。
- 地域らしさを再認識して、総合計画や地域計画への活かし方を学んだ。
- 島内の仲地地域を事例に、棚田のある景観や集落形成について意見交換した。

